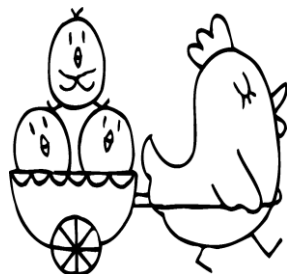


ひよこだより

草笛学園 2024年2月 (最終号)



一年間ありがとうございました！

4月から始まったひよこ教室も、最後日となりました。月1~2回という少ない回数ではありましたが、これまでの活動の中で、家族や友だち、職員と一緒に楽しさを共有し、“もっともっと”“ぼくも、わたしもやってみたい！”と子どもたちの前向きな気持ちに触れることができました。何が始まるの…たくさんの方がいてドキドキする…など、不安に思うこともあったかと思いますが、家族の暖かい励ましや支えの中で“できた！うれしい！”“お友だちがしていることにも興味津々！”そんな気持ちを積み上げてくれていたらうれしいなと思います。来年度から、一つ大きくなった子どもたちと、新たな目標を持ち、また一緒に取り組んでいけるといいなと思います。

保護者の皆さんにとっては、1対1で向き合うことで、お子さんへのかかわり方や成長、課題を知る機会となったでしょうか？懇談の時間も、十分ではなかったかと思いますが、少しでも気持ちが軽くなったり、同じ悩みを持つ保護者同士のつながりができていれば幸いです。

発達するってどうゆうこと？ 「できなくなることも発達？」

「できること」が増えることだけが発達だと捉えていると、子どもたちの幸せを願うあまり、私たちはつい、「できることを増やしてやろう」と考え、その考えを子どもに押し付けがちになります。「できて欲しい」という私の願いが前面にでると、主人公は子どもではなく、私たち大人になってしまいます。コトバがなかなか出ないわが子に、『ほら、これはツミキよ、ツミキって言ってごらん』と働きかけているお母さんにとっては、今、我が子が何を感じているかよりも、“言葉をしゃべるようになってほしい”という自分の思いのほうが頭を占めています。積木を二個積んで嬉しそうに母親を見つめたわが子の笑顔は、お母さんの心の中には入り込めなくなってしまいます。「できることを増やしたい」と願うことで、かえって子どもの心から遠ざかるのは淋しいことです。子育ても楽しくなくなってしまいます。でも、「できることを増やしたい」と願うあまり、子どもの思いや気持ちから遠ざかってしまうことは、実は日々よくあることなのです。とくに、子どもが、大人から見たら“情けない姿”“マイナスに見える姿”を示した時、それは強くなります。情けなさやマイナスな姿は、発達ではなく後退や停滞としてとらえられているからです。

でも、子どもは発達するからこそ“情けなくなったり”“マイナスな姿”や“できなくなる姿”を示してくることが多いのです。多くの子は4歳前後から何らかの癖をだしはじめます。ハナを

ほじくる、Tシャツの裾をほぐして伸ばしてしまう、髪の毛をしごくなど、大人から見たら“情けない”“マイナスな姿”を示してきます。しかし、こうした姿は内面が発達したからこそ発生してくるものなのです。3歳後半から4歳にかけて、子どもは周りの世界を新たな目で見つめるようになります。仲間の能力に着目し、「かっこいいな」と憧れるようになる一方で、自分の能力と天びんにかけて「デキルカナ、デモ、デキナイカモシレナイ」と揺れるのです。揺れている間は行動には入れませんから、手もち無沙汰になって、手が口や鼻や性器やTシャツにむかうのです。あこがれ、やりたいと思うからこそ揺れ、自分の能力を思いつつも、そんな自分を振り切ろうとするからこそ揺れるのです。自分をひろげ、自分の能力をより主体的に高めようとする、新たな水準の主体性を確立するために、自分で踏み切っていくために揺れているのです。

こうした癖は「汚いからやめなさい！」と叱ったから卒業していくものではなく、彼らの“揺れる”気持ちをうけとめつつ、自分で踏み切ろうとしている心の“がんばり”を大切にしながら「どうすればできるのか」、子どもに見通しを示していくなかで、子どもが自ら克服していくものです。内面が豊かになり、新しい挑戦が始まったからこそ“マイナスな姿”を出さざるをえないのだ、そう思って子どもをみつめると、いとおしさがひろがってきませんか？

友だちへの関心が芽生えはじめた1歳児が、何かというと友だちを噛んだり叩いたりするのも、新しい世界が内面にひろがりかけているからです。小学校の低学年児童が、わざと“あぶないマネ”をしたがるのも、自分の力を試すことで自分の大きさを実感したいという願いが生まれてきているからです。

でも、“マイナスはマイナスだ”という側面も見逃してはなりません。爪かみなどの癖は仲間にあこがれるだけでなく、だからどうしたらよいかが見えてきたら卒業し始めます。噛みつきも、コトバで交わる力が充実してくると卒業していきます。あぶないマネは、より価値を感じる“文化”をつかむと、卒業しはじめます。新しい世界、新しい自分にむけての挑戦は始まったけれど、力は十分についていない、あるいは力を何にむけてよいか分からない、そうしたジレンマがさまざまな“マイナス”や“情けなさ”“できなさ”になってあらわれてくるのです。新たなレベルで主人公になろうとしている子どもたちの内面の育ちを大切にしつつ、子どもが力をつけ、自ら主人公として力を発揮し、今までにない喜びを体験しうるために、今、何が求められているのかという視点で子どもをみつめたいものです。

参考文献：近藤直子著『ぐんぐん伸びろ発達の芽』

日々の忙しさの中では、子どもの困った姿や、情けない姿の内側に子どもたちの悩みや願いが隠れていることを見落してしまいがちです。少し立ち止まって、何に困り、何を願っているのかを想像してみることができたならば、きっと、子どもたちへ手を差し伸べていけるのではないのでしょうか。大人がそんな思いでいてくれることが、更なる子どもたちのがんばれる源になっていくと思います。子どもたちが見せる姿に、行き詰ってしまった時には気軽に声をかけてくださいね！一緒に子どもたちについて語り合いましょう！

★来年度の外来教室は【めだか教室】になります。開催日は・・・

めだか①：第2火曜日 9:20~11:30 めだか②：第4火曜日 9:20~30 を予定しています

*3月の中旬には、初回の開催日と年間予定について送付しますので、ご確認のうえ、ご参加ください。